

序章

阪神・淡路大震災から 3 年が経過し、復興への取り組みも、緊急的対応から長期的見通しに立った対応に移行しつつある。しかし、この震災による被災と復旧の特性については、依然明らかになってはいないものと考えられる。そこで、本研究は、神戸市全域の民間住宅を中心とする復興の特性について、被災と復旧の状況、震災前の地域特性と復旧の相関を考察することを通じて明らかにし、さらに神戸市灘区味泥地区と同長田区野田北部地区を対象にした事例調査を通じて復旧の阻害要因を明らかにするものである。

本研究は、研究の目的を述べる序章、被災と復旧の状況を概観する 1 章、被災地における震災前の地域特性と復旧過程の相関を明らかにする 2 章、さらに復旧の阻害要因を明らかにするため神戸市灘区味泥地区ならびに長田区野田北部地区における事例による検証を行う 3 章、そして以上の考察を整理しまとめとする 4 章の、計 5 章からなる。

1 章では、被災状況については区域、地区、町丁別にその把握を行い、復旧状況については、1995 年 1 月から 97 年 2 月までに神戸市に届けられた約 40,000 件の建築確認申請届出データにもとづき、用途、敷地規模、容積率、構造別に把握を行う。それらをふまえ、復旧の指標として復旧度を設定することにより、被災と復旧の相関関係を明らかにする。

2 章は、震災前の地域特性、被災状況、復旧状況、それぞれの相関を明らかにするものである。ここでは、まず従前の地域特性として狭小宅地率、宅地あたりの人口密度、戦前建物率、木造率、道路率を指標にし、ついで、それらと被災状況・復旧状況との相関を検討するため、重回帰分析や主成分分析を行い、それにより被災地全域の類型化を試みる。

3 章は、2 章の分析をふまえ、味泥地区と野田北部地区における住宅の被災と復旧状況の特性を明らかにし、前章までのマクロな分析を即地的に補完する。特に、ここでは、外観の目視調査にもとづく復旧状況と、それぞれの地区の震災前の建物形式、敷地規模、接道条件、権利関係との相関をふまえて、住宅再建の阻害要因を明らかにすることを目的としている。

以上で明らかとなった点を整理し、4 章のまとめとする。